

今、教育委員は！

平成28年7月
教育委員 青柳 淳

今月のテーマ 「主体的な学び」～学校訪問や音楽会等の姿から～

【僕らは彼を評価する】

近年、政治家田中角栄の再評価ということが言われています。それに関連して、思い出すことがあります。

少し古い話になりますが、昭和50年代、高校に社会科の新しい科目として『現代社会』が設置されました。この新しい科目においては、生徒が自らテーマを設定し、自ら学び自ら考えることが重視されました。板書・ノート型の授業も行いましたが、新しい科目への対応ということもあり、グループ学習と発表という形式の授業も年に何回か行うことにしました。

各グループ、相当レベルの高い研究発表を行いましたので、各グループの発表資料を廊下に張り出すことにしました。

あるグループの発表は、田中角栄研究でした。当時、田中角栄は、金権批判の真っただ中にあり、かつ、ロッキード事件の被告人でした。彼らの研究内容は、そのような社会の一般的評価にとらわれたものではありませんでした。日本列島改造論など経済政策の独創性、日中国交回復・シベリア開発の取り組みなどの自主自立的な外交路線、それらを総合的に考察し評価する内容のものでした。

このグループの発表資料を廊下に張り出すと、年配の先生の中からは、「ああいうものは、どうかな」という批判の声も出ました。

50年経たないと「歴史」にはならないと言われます。まだ、田中角栄は歴史ではないのかもしれませんが、あのグループの生徒たちのモノを見る眼のおもしろさ・確かさを、遠く思い返しています。

【教育委員会の動き】

1 学校訪問で見たこと感じたこと①

東信教育事務所の酒井主幹指導主事の学校訪問が、5月12日から6月30日にかけて行われました。教育委員も各校手分けして酒井先生と一緒に訪問いたしました。秋に一部の学校が残っておりますが、市内のほとんどの学校を訪問しました。

小学校については、昨年度児童が落ち着かないということで話題になった学級を、心配しながら見に行ったわけですが、次第に落ち着きを取り戻している様子をはっきり見てとることができ、心からほっとしました。本年度、新たに、落ち着きがないといわれるクラスがなかったわけではありませんが、担任を中心に状況の改善に取り組んでいるとのことで、今後に期待したいと思います。全体としては、子ども達が、活発に発言し意欲的に学習活動を行い、授業を拝見した者としては、「学んで楽しいことなんだな」ということを実感することができました。

中学校については、いずれの中学校においても、落ち着いた雰囲気の中で安定感のある授業が行われていました。ただし、少し気になったのは、板書、講義、生徒のノートというスタイルの講義式の授業が多いことでした。この講義式の授業スタイルについては、かつて、よく中学の先生が高校の先生の授業を批判したものです。今日においても、かつて中学の先生方が強調されたように、授業における生徒の積極的発言、主体的な学習活動は、十分尊重されるべきものと思います。

総体的に申しますと、佐久市の各学校は、子ども達を安心して学ばせることができる学校であると感じました。そんな思いを強くした学校訪問でした。

2 学校訪問で見たこと感じたこと②

学校訪問で強く感じたのは、理科の魅力的な授業が各校で行われているということです。

ある小学校では、メダカの発生から始まって成長各段階の様子が、顕微鏡やルーペで観察できるように、理科室の後ろにセットしてありました。またある小学校では、水カマキリ、ドジョウ、タニシ、アオムシなど、様々な生き物を飼い、いろいろな植物を育てて



いました。虫に名前がついていたりして、子ども達と生き物との共生を感じさせられました。

授業の中で行われている実験・観察は、子ども達の主体的な意欲、自主的な学びを十分に引き出しているように見受けられました。

市としても、意欲的な理科教員の獲得、理科支援員の配置など、理科教育充実の事業に取り組んでおります。意欲的・主体的な学びのあり方が、理科をはじめとして、学校教育全体に広く浸透していくことを願っています。

3 音楽会のレベル高いよ



6月下旬に、各小学校で、校内音楽会が開催されました。

さらに、6月29日には、佐久市小学校合同音楽会が、コスモホールにおいて開催されました。各校の6年生が、合唱の腕前を披露してくれました。

荻原周子先生は、「ありがとう。心がジーンとしている。声が柔らかくて美しい。心にしみてくるような声で、一音一音丁寧に歌って

いました。」と講評しました。そして、次の2点を強調しました。

- ・誰でもできるが難しいこと・・・「一生懸命歌うこと」。合唱をつくる上で、一番大切なことであり、一生懸命の心が合わさるとすばらしい合唱になる。
- ・自分が得意な「声」「歌」を持ってほしい。高い声、低い声、真ん中という人もいますかね。たとえば、この音だったらいい声が出るのだというのを、音楽の先生とみつければいいですよ。

荻原先生のアドバイスをうかがっていると、どんどん歌がうまくなっていくような気持ちがしてきました。